

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立松山南高等学校

学校番号（21）

評 価 実 施 日		令和8年2月18日（水）	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	岡田 紀夫	地元企業関係者	学校評議員
	元永 学	自治会等関係者	学校評議員
	東海林登志子	地元企業関係者	学校評議員
	井上 敏憲	学識経験者	学校評議員
	中村 和憲	食文化・料理研究家	学校評議員
	佐伯 奉範	保護者	
	井手 優子	保護者	
	三ツ井美恵子	保護者	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 全体について	
・読書を大切にしてほしい。 ・Instagram からホームページやYou tubeへの誘導改善（ストーリー活用など）をしては。また、ストーリーにリンクを設置し、保護者には「アカウント通知ON」を勧める。	・朝読書や読書ノート of 取組など、読書啓発は現在も行っているが、電子図書 of 利用を含め、更なる充実を図る。 ・本年度より、本格的にInstagram by による広報をしているが、提言いただいた方法を取り入れ、情報発信力 of 高める。
(1) 全日制について	
・生徒 of 挨拶が素晴らしく、学校 of 雰囲気が良い。 ・生徒と教師が分かり合えている。そこに保護者が入り込めていないと感じる。家庭で子どもが学校 of 話をしないため情報不足になる。 ・情報（特に大学入試 of 最新状況など）をもっと共有してほしい。学校で場 of 設けるなど。 ・日経STEAM of 文部科学大臣賞は、本当に素晴らしい。 ・交通ルールについては問題が多い。朝 of 北門 of 送迎マナーは相変わらずで、休日 of 部活動終わり of 自転車は、ヘルメットなしで歩道を通行している。北門 of 横断歩道前 of での立話は車を止めている。	・PTA総会 or 研修旅行、懇談会、授業公開日、HP or クラッシーなど様々な場面方法を駆使して、保護者との情報共有 of 充実させていきたい。 ・SSH事業も基礎枠を終了し、来年度より新たなステージ of 迎える。コンテスト of 成果のみならず、全国 of リーディング校として、充実した教育活動となるよう、発展的に取り組んでいく。 ・自転車にも青切符制度が導入されることも意識して、今後も交通ルール遵守とマナーについて、指導を保護者とともに協力して徹底する。

(2) 定時制について	
・経済的な理由で通っていた昔とは違うと思うが、現在の生徒の経済状況はどうか。 ・チラシは昨年度の方がよいと思う。 ・商業科と一緒にすることで、普通科の生徒が商業科目を受講でき、進路の選択肢が増えるのはよいことである。 ・生徒数減少の中、昨年度から大幅に入学者が増えた。よく頑張っている。 ・合格大学等を見ると、進学面でも頑張っていると思う。	・生徒の家庭の経済状況は様々である。現在、働きながら定時制に通っている生徒はいない。半数はアルバイトをしているが、収入は自分のために使っていると思われる。 ・来年度の参考とさせていただく。 ・多様な進路希望や興味関心に対応した教育を展開し、本校定時制のさらなる魅力化を図っていく。 ・本校定時制にマッチする中学生に情報がしっかり届くように今後も広報活動を充実させる。 ・国公立大学や難関私立大学への進学希望者をはじめ、生徒の学習ニーズに応じた指導に努めていく。
(3) 砥部分校について	
・今後デザインの分野でもA Iが活用されていくことが見込まれており、学校においては、人間教育として取り組むことが重要。砥部分校では、A Iをどうとらえているか。 ・受賞の数々、大学進学の人数の増加などから、順調な様子がうかがえる。特に写真部は、少人数ながら、コンクール等での活躍が秀でており頼もしい。こうした成果について、教育課程と部活動の関連はあるか。 ・グラデュエーション・ポリシーは、それが身に付いたかどうか、生徒自身が評価することが重要。現状として、評価者は教員だが、将来的には生徒や保護者の評価も必要となるのではないか。 ・学校HPへのアクセス数を増やすためには、Instagram からホームページやYou tubeへの誘導改善を行うことが有効。ストーリーにリンクを設置し、保護者に「アカウント通知ON」を勧めてはどうか。	・砥部分校はD Xハイスクールに指定されており、A I活用は喫緊の課題。来年度のゲームクリエイションコースの授業に位置付けたところである。また、A Iを適切に活用できる人材育成には、倫理観の醸成、グローバルな視点での課題発見・解決能力など、人間性の涵養と併せて、教科横断的な視点を教員が持つ必要がある。研修を通して教員の意識改革にも取り組みたい。 ・生徒は教育課程（授業）の中で、デザインの様々な知識や技術を身につけて行くが、それらの学びを活用して、部活動にも意欲的に取り組んでいる。今後とも、授業や学校行事、部活動など、全ての教育活動を関連づけながら、全ての生徒たちに何らかの成果を持たせることを目指したい。 ・今年度から、生徒を対象として、入学時、1・2年生の3学期末、卒業時の4回、グラデュエーション・ポリシーの達成状況を確認することとした。来年度から、保護者に対しても、同様に調査・確認を行い、教育活動の改善に役立てたい。 ・早速、担当者と相談して、ストーリーの活用を進め、学校HPのリンクを設置し、Instagramから学校HPへの誘導改善を行うこととしたい。

・生徒の自己肯定感を高めることが重要。小さなことでも、できたことを褒める声掛けにより、生徒の成長に対する支援をお願いしたい。 ・進学希望者のために、「公民」を選択できるようにしてほしい。	・今後とも、生徒の自己肯定感が育まれるよう、丁寧に指導してまいりたい。 ・現在、本校に配置される地歴公民の教員は非常勤講師であることから、同科目の補習の開講が難しい状況にあるが、将来的に生徒のニーズと進路希望を踏まえて検討してまいりたい。
2 自己評価の項目について	
・全国レベルの国際科学コンテスト入賞数がJSEC佳作1件ではD評価もいたしかたない。入選以上を目指して欲しい。 (定時制) ・「学校行事と部活動の活性化」の具体的目標が「高文祭参加・出展3名以上」から「全国定通制体育大会出場者5名以上」へと変更された結果、体育系のみの目標となってしまった。やはり体育系と文科系のバランスが大事だと思う。	・本年度も国内科学コンテストにおいては、優秀な成果を収めたが、国際共同研究を含め、国際科学コンテストにも積極的に挑戦する。 ・文化的活動を目標に入れることを検討する。
3 学校評価アンケートについて	
・グラデュエーションポリシーは卒業生がそれが身についたかどうかを評価することが必要。将来的には生徒や保護者にも聞いていかなければならない。	・今年度より追加した自己評価項目「グラデュエーションポリシーの達成」の検証として、来年度は教職員・保護者・生徒のアンケート項目に加える。
4 その他	
・人生のデザインには言葉が大切。何をするにも言葉を磨くことが必要。 ・10代の間に自分らしさに気づけるたくさんの経験を用意していただき、ありがたい。 ・先生方の小さなひとことが生徒の自信につながる。	・重点努力目標「志高く 心を耕し 言葉を磨け」のもと、生徒・教職員共に、互いを敬い、自らを高められるよう言葉を磨いていきたい。